社会

人的資本経営の強化

働き方改革

ニチレキグループでは、業務効率を高めることによりワーク・ライフ・バランスの向上に努め、従業員が自らの事情に応じた多様で柔軟な働き方を選択できる体制づくりに取り組んでいます。

特に当期は、2024年問題への取り組みとして、各業務のシステム化を推進しました。工事においては、「工事サポートシステム」を導入し、現場担当者は現場で撮影した工事写真等の各種データを即座にクラウドサーバにアップロードし、事務所にいる別の従業員が工事書類の作成にあたる体制としました。これにより、現場担当者は現場作業により集中できるとともに、事務所に戻ることなく現場から直帰することで、残業時間の削減につながっています。

また、製品の物流においては、受注から配車、車両点検、運行状況確認、オペレータの勤怠、日報作成等、関連する情報をクラウド上で一元管理できる新システムを導入し、営業担当者・物流担当者・車両オペレータのスムーズな業務遂行と事業所間のタイムリーな情報共有を可能にすることで、業務効率化と残業時間の削減につなげる取り組みを開始しました。

加えて、電子承認の積極的な導入により、場所とタイミングにとらわれることなく日々の業務をスムーズに進められる仕組みづくりにも取り組んでいます。今後さらに電子承認の対象業務の範囲を広げていくことで、さらなる効率化を進めていきます。

有給休暇の取得に関しては、年度当初にあらかじめ取得計画日を設定することで、法定日数以上の計画的な取得を促進しています。特に年末年始・夏季においては長期休暇の取得を奨励し、従業員のワーク・ライフ・バランスの向上に努めています。さらに、働き方の選択肢を広げる一環としてモバイル端末を有効活用することで、従業員が自らの都合に合わせて働く場所を選べるようにしています。

今後も従業員一人ひとりが能力を発揮し、成長し続けられる職場環境づくりを推進していきます。

	2022年度実績		2023年度実績	
項 目	連 結	単 体	連 結	単 体
1か月当たりの平均残業時間	21.6時間	13.6時間	**18.6時間**	**10.6時間**
年間平均残業時間	259.5時間	162.8時間	**223.5時間**	**127.2時間**
有給休暇取得率	68.3%	69.3%	**77.8%**	**78.3%**
有給休暇平均取得日数	11.9日	12.1日	**13.8日**	**13.8日**

■ 中長期目標

項目	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2025年度	2043年度	SDGsマッピング
年間残業時間＊1	640時間以下 87.2%	640時間以下 89.9%	640時間以下 93.5%	640時間以下 100%	360時間以下 100%	
有給休暇 年間取得日数＊2	付与日数の5割以上 56.4%	付与日数の5割以上 69.1%	付与日数の5割以上 80.0%	付与日数の5割以上 100%	付与日数の9割以上 100%	

＊1：グループ全従業員が対象
＊2：年間付与日数10日以上の従業員が対象

ダイバーシティ & インクルージョンの推進

中期経営計画『しなやか2025』では、環境変化に「しなやか」に対応し、組織レジリエンスの高い企業グループに成長していくことを目指しています。属性の異なる様々な人の意見を取り入れ多様性を認めることは、その要件の一つであると考えています。

そのためニチレキグループでは、国籍、世代、性別などの異なる多様な人材が能力を存分に発揮できる環境整備に努めています。多様な人材が異なる意見を出し合うことで新たな発想を生み出し、新しい仕事の創造につなげ、事業環境の変化に強い企業を目指していきます。

多様性を尊重するための施策の一つとして、従業員が安心して子育てができるよう、育児休業の取得を推奨しています。男女の区別なく、対象従業員一人ひとりに育児休業制度の仕組みやフォロー体制を個別に説明することで、取得に対する不安を取り除いています。また、育児休業期間中は会社全体で休業者をバックアップすることはもちろん、同じ職場の従業員に対しても、人員配置や業務分担の見直しを通じ負担増につながらないよう配慮しています。さらには、休業期間終了後も各従業員の状況に応じ、短時間勤務やテレワークを活用して子育てと業務を両立できる体制を整えています。

加えて、外国人留学生や海外人材を継続的に募集し、国籍にとらわれない採用活動を行っています。実際、研究開発や現場作業に従事する海外人材は、年々増加しています。

	2022年度実績	2023年度実績
項目	連結	
女性技術者数（技術研究所）	7名 / 38名 (18.4%)	**5名 / 47名** **(10.6%)**
女性従業員数	87名 / 972名 (9.0%)	**86名 / 977名** **(8.8%)**
育児休業取得者数	7名 (男性2名、女性5名)	**10名** **(男性6名、女性4名)**
育児休業取得後の職場復帰者数	5名 (復帰率100%、2名は休業継続中)	**5名** **(復帰率100%)**

なお、女性活躍推進法等に基づく多様性に関する3指標の2023年度データは、以下のとおりです。

■ 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率および労働者の男女の賃金の差異

2023年度実績				
管理職に占める女性労働者の割合*3	男性労働者の育児休業取得率*4	労働者の男女の賃金の差異*3		
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者
1.1%	100.0%	49.3%	55.4%	54.2%

＊3：「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）の規定に基づき算出
＊4：「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（平成3年法律第76号）の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」（平成3年労働省令第25号）第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出

賃金制度の改定

国際的な原材料価格の上昇や、円安による海外からの輸入コストの増加といった要因を背景に、国内においては物価が継続的に上昇する中、従業員が安心して働くことのできる環境の整備に取り組みました。その取り組みの一環として、2024年4月より、基本給の大幅なベースアップに加え、物価高騰への対応および健康増進を目的とする食事手当や、2024年問題の対応および優秀な人材の獲得を目的とする職種や技能に応じた手当の支給を全国一律で開始するなど、各種手当の見直しを図りました。

その結果、人材の新規獲得や他地域への人員応援をより積極的に行うことができる土台が整ったことで、『しなやか2025』で重点的に取り組んでいる有機的エリア体制の強化を一層促進できる体制となりました。

人材育成に向けた教育研修制度

ニチレキグループでは、従業員が個々の能力を発揮できるように、入社以降のキャリアの各段階における研修に力を入れています。

例えば、入社から４年目まで切れ目なく毎年研修を実施しています（新人研修→1年研修→職種別研修→３年研修）。会社の事業に対する理解を深めこれからのキャリアを展望するきっかけを提供するとともに、同期社員との絆を深めつつ切磋琢磨できる機会にもなっています。

また、グループ経営基盤の強靭化を図るため、ガバナンス強化の側面からコンプライアンス研修にも注力しています。継続的に実施することで法令や社会環境等に関する最新の動向へ認識をアップデートするとともに、階層別に実施することでそれぞれの役割において把握すべき点を明確にしています。

さらに、従来の知識の延長にとどまらず、新たな領域の知識も身に付けることができるよう、階層別および職種別の研修を行っているほか、公的資格の取得促進の支援として、社内外の各種講習会への積極的な参加も推奨しています。

■ グループ教育研修制度

新入社員研修

3年研修

経営管理者研修

職種別研修

こころと体の健康経営に向けた取り組み

従業員のメンタルヘルスの不調を未然に防ぎ、より働きやすく健康な職場を整備することを目的に、全従業員を対象としたストレスチェックを年1回実施しています。

ストレスチェックの結果の集計・分析から職場におけるストレス要因を評価し、職場環境の改善につなげることで、従業員のストレスを軽減するよう努めています。

また、従業員の健康の増進のため、健康診断のみならず一定年齢に達した際の人間ドックの受診奨励や、インフルエンザ予防接種の費用補助についても実施しています。

労働安全衛生に対する取り組み

労働安全衛生に関する方針

ニチレキグループでは「安全衛生管理方針」のもと、事故や労働災害の撲滅、第三者災害の防止を目的に、労働安全衛生マネジメントシステムを「安全衛生管理ルールブック」という形でマニュアルにまとめて体系化し、日々の業務におけるルールの遵守を徹底しています。

また、労働安全衛生に関する取り組みを一層推進するため、グループ本社の安全品質環境部を中心に、ニチレキ各支店にも独立した部署として安全衛生課を設けています。

安全衛生管理方針

労働安全衛生マネジメントシステムを確実に運用し、災害、事故の撲滅を図り、
安全で快適な職場環境を形成します。

2024年4月1日
ニチレキグループ代表 小幡 学

安全衛生管理の取り組み

1. 労働安全衛生に関する法令、規則、社内規程を遵守する
2. 安全衛生管理ルールブックの実効性を高め、安全行動を定着させる
3. 安全衛生パトロールを強化し、安全に対する意識や行動を高める
4. リスクアセスメントを取り入れたＫＹ活動を強化し、予防安全に努める
5. 指差呼称、輪留めを徹底し、ヒューマンエラーを防止する
6. 5S運動（整理・整頓・清掃・清潔・躾）を推進する

安全衛生管理体制

当期の取り組み

ニチレキグループでは、従業員と協力会社が一丸となって事故の撲滅に取り組んでいます。当期の具体的な取り組みは、以下に示すとおりです。

【安全衛生管理ルールブックの運用】

グループの従業員が守るべき安全上のルールを体系的にまとめた安全衛生管理ルールブックに則り、作業手順の遵守や指差呼称といった基本事項の確実な実施に努めました。

①交通事故撲滅に向けた対策

アスファルト乳剤散布車、ローリー車、路面計測車を対象に、車両の前方および車内の運転状況を撮影・分析し、危険を予測した際にはアラート音でドライバーに警告するAI搭載型ドライブレコーダーの活用を推進しました。

②公衆災害撲滅に向けた対策

危険予知活動や作業手順の遵守、誘導員・見張り員の適切な配置といった基本的事項の確実な実施により、運転ルート沿線や工事箇所周辺における第三者被害の撲滅を目指しました。

③関係法令改正への対応

労働安全衛生に関する各種関係法令改正の情報をいち早く入手し、全国事業所を対象とする特別教育の実施や啓蒙活動を随時行いました。また、資格の取得や機材・設備の改修といった、法令の改正に伴って必要となる追加的措置の確実な実施を図りました。

【安全啓蒙活動の強化】

グループ本社の安全品質環境部による全国安全パトロール、および全国の各事業所における安全パトロールを、安全衛生管理計画書に則り確実に実施しました。地理的アクセス等も考慮し、ウェアラブルカメラを用いたWeb型の安全パトロールも併用することで、パトロールの回数や質を十分に確保できるようになりました。加えて、重大災害が発生した際の臨時パトロールにもWebを活用することで、問題点の指摘をタイムリーに行うことができるようになりました。

パトロールによる危険箇所の洗い出しの結果を踏まえ、現場および事業所における安全かつ快適な職場環境の実現に向けて各種改善措置の実施を指示するとともに、実施結果の確認を行いました。

重機の死角に関する特別訓練

Webによるグループ安全衛生会議

ウェアラブルカメラによるWeb活用型安全パトロール

当期の取り組みの結果

以上の取り組みにもかかわらず、当期の事故件数の合計は27件と、前年度より11件増加する結果に終わりました。その主な原因としては、安全確認の不足や不注意など、基本的かつ初歩的な安全ルールの実施不備や安全意識の欠如が挙げられます。

■ 事故件数(件)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
公衆損害事故	15	13	15	10	3	9
機材関連事故	5	4	5	3	4	13
交通事故*1	0	2	5	5	3	0
労働災害*2	2	3	5	6	6	5
事故件数 計	22	22	30	24	16	27

＊1：業務中の人身傷害に係る事故
＊2：4日以上の休業災害

今後の取り組み

事故件数の増加を受け、ニチレキグループでは以下の活動の実施を通して継続的な改善を図ることにより、事故の撲滅に向けこれまで以上に注力していきます。

【機材関連事故・交通事故の撲滅】

改訂版安全衛生管理ルールブックに則り、手順の遵守や指差呼称といった基本事項を徹底するとともに、作業内容に即した正しい服装での作業実施など、安全ルールを基礎から漏れなく守るよう、従業員の意識付けをさらに強化します。

【公衆損害の撲滅】

安全衛生管理ルールブックに記載された作業手順の遵守を徹底します。例えば、現場施工時のアスファルト乳剤の飛散事故などを防止するため、風速による施工実施の可否基準を設け、その遵守に努めます。

【安全啓蒙活動の強化】

「全国安全週間」、「全国労働衛生週間」、「年末年始建設業労働災害防止強調期間」、「建設業年度末労働災害防止強調月間」等の各種運動に参画するとともに、安全品質環境部による安全衛生パトロールを引き続き全国で実施し、安全の啓蒙に努めます。

【安全衛生管理水準の向上】

引き続き、ウェアラブルカメラを用いたWeb活用型安全パトロール、現場での安全教育などを徹底し、安全意識の向上と類似事故発生の抑制に努めます。

サプライチェーン・マネジメントの強化

品質確保に向けた方針

ニチレキグループでは以下の品質方針のもと、ISO9001に準拠した取り組みとして、お客様のニーズに対応した製品および工法の創造・提供を絶えず追求しています。

品質方針

「種を播き、水をやり、花を咲かせて実らせる」種播き精神のもと、
「道」創りを通して社会に貢献するため、顧客満足と信頼が得られる
製品・工法を常に創造・提供していきます。

2024年4月1日
ニチレキグループ代表 小幡 学

ISO9001に準拠した取り組み

1. 競争力のある製品・工法を提供し、顧客を創造する
2. 魅力のある製品・工法を開発し、顧客要望に応える
3. 顧客と市場にあった調査技術を開発し、活用する

ISO登録証
（一般財団法人 日本科学技術連盟
ISO審査登録センター）

購買先との協調による調達活動

ニチレキグループでは、中長期的に持続可能な企業グループへ成長していくため、購買先との協力のもと、サプライチェーン全体を意識しながらESGに配慮した調達活動を実施しています。

製品の品質に影響する購買品については、少なくとも年1回、購買先評価を確実に実施し、購買先の認定・登録を行っています。その結果、改善余地が抽出された購買先とは問題点を共有の上、解決に向け協議しています。また、購買先との信頼関係を深めるための双方向的なコミュニケーション活動も継続的に展開しています。

加えて、サプライチェーン全体の共存共栄や望ましい取引慣行の順守などに向けた取り組みを、「パートナーシップ構築宣言」として公表し、購買先との良好な関係のさらなる発展を推進しています。

パートナーシップ構築宣言

中長期目標

項目	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2025年度	2043年度	SDGsマッピング
購買先評価実施率	100%	100%	100%	100%	100%	12 つくる責任 つかう責任 / 17 パートナーシップで目標を達成しよう

表彰工事

国土交通省関東地方整備局 安全管理優良受注者表彰・工事成績優秀企業認定

ニチレキグループの日瀝道路株式会社が、過去3か年度の無事故を受けて、国土交通省関東地方整備局長より、令和5年度 安全管理優良受注者表彰を受賞しました。

また、関東地方整備局において過去2か年度に完成した工事成績評定の平均点が80点以上の企業、かつ工事成績優秀認定企業としてふさわしい企業として、同じく関東地方整備局長より、令和6年度 工事成績優秀企業認定を受けました。いずれも昨年度に続けての受賞となります。

安全管理優良受注者表彰状

工事成績優秀企業認定書

国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所 優良工事表彰・難工事功労表彰

工事名：R4国道16号大青田地区（その7）電線共同溝工事
工　期：2022年10月1日～2023年5月31日

千葉県柏市における電線共同溝*整備工事において、日瀝道路株式会社が国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所長より優良工事表彰、および難工事功労表彰を受賞しました。

本工事は、一般国道16号の千葉県柏市大青田地区において電線共同溝を整備する工事です。本工事現場に隣接して柏市土地区画整備事業が行われており、土地区画整備事業と本現場が連続し施工が輻輳することから、施工手順・工程について十分な打ち合わせを行い、工事の円滑な進捗に努めました。

また、施工中において、使用材料や施工機械の配置の工夫により、路上工事日数の縮減を図るとともに、路面切削工においてICT施工技術を活用するなど省力化を図ったことが評価されました。

優良工事表彰状

難工事表彰状

施工後

＊ 地上や上空にある電力や通信などの電線類を地下の空間に収容するための施設。地下に収容することにより、快適な歩行空間の確保や景観の向上を図る

表彰工事

首都高速道路株式会社 優秀調査・設計業務表彰

工事名：(高改修費)舗装の設計施工に関する技術資料作成(2022年度)
工　期：2022年12月28日～2024年3月21日

首都高速道路株式会社から発注された「舗装の設計施工に関する技術資料作成」において、ニチレキ株式会社が首都高速道路株式会社代表取締役社長より、優秀調査・設計業務表彰を受賞しました。

本業務は舗装に関する各種課題を改善するための調査・検討を行い、首都高速道路株式会社が発行する「舗装設計施工要領」の改訂資料を作成する業務です。プロポーザル方式により発注されており、1年以上に及ぶ工期の中で綿密な打ち合わせを実施しながら業務を進めました。そのような中で、高い提案力および質の高い業務遂行力が評価されました。

首都高速道路株式会社では、小粒径ポーラスアスファルト混合物(5)という、従来のポーラスアスファルト舗装よりも耐久性・低騒音性・低燃費性等に優れた混合物を表層に採用しています。本業務の中でも本舗装の供用性や効果を検証しており、首都高速道路株式会社の担当部署とともに各種外部発表を行い、小粒径ポーラスアスファルト混合物(5)を首都高速道路以外にも広める活動を行っています。

表彰状

ニチレキ株式会社
代表取締役社長 小幡学 殿

(高改修費) 舗装の設計施工に関する技術資料作成 (2022年度)

表彰状

貴社施行の小粒径ポーラスアスファルト舗装に関する調査
凍結抑制舗装の耐久性に関する調査 伝熱性に優れたアスファルト混合物への浸透材料に関する検討等に係る頭書業務は優秀な成績を収められました
よってここに表彰します

令和六年六月十二日
首都高速道路株式会社
代表取締役社長 前田信弘

小粒径ポーラスアスファルト混合物(5)を用いた舗装

札幌市建設局 土木部所管工事優秀施工業者表彰

工事名：防災・安全交付金事業 副都心団地3号線(副都心団地7号線～副都心団地6号線間)歩道バリアフリーほか工事
工　期：2023年4月1日～10月27日

札幌市における歩道バリアフリーほか工事において、ニチレキグループの北海道ニチレキ工事株式会社が、札幌市建設局長より土木部所管工事優秀施工業者表彰を受賞しました。

本工事においては、現場内にプロ野球・北海道日本ハムファイターズの本拠地である「エスコンフィールドHOKKAIDO」行きのシャトルバスの停留所があり、ナイター開催時の夜間作業が困難となりました。バスの運行中と運行終了後とで交通規制の形態を変えて作業を行うことで、バスと歩行者の安全を確保しつつ、作業の進捗も遅らせることなく、早期の現場完了につなげました。

また、管轄のまちづくりセンターから地域のニーズを聞き、バス停留所への椅子の寄贈など、地域への貢献活動も行いました。

その他、工事における創意工夫として、高性能なニチレキ製品群(スーパータックゾール、スーパーロメンパッチ、ピタッとL型止水テープなど)を活用した品質向上を図るとともに、環境負荷軽減への取り組みとして、工事看板や現場事務所における太陽光LED照明の導入を行いました。

表彰状

表彰状
北海道ニチレキ工事 株式会社
代表取締役 中村 強 様
防災・安全交付金事業
副都心団地3号線(副都心団地7号線～副都心団地6号線間)
歩道バリアフリーほか工事
貴社は令和5年度本市発注の頭書の工事において適正な工事管理に努め優秀な成績をおさめられました
よってここに表彰いたします
令和6年6月19日
札幌市建設局長 荻田 薫一

施工後

研究開発型企業としての取り組み

新製品・工法開発

研究開発は、「調査・診断→設計・提案→製造・販売→施工・管理」のサイクルからなるニチレキグループのビジネスモデルの根幹であり、持続的成長の源泉です。

一方、社会情勢を鑑みると、地球規模での気候変動問題の解決が課題となる中、企業にも環境に配慮した持続可能な事業活動が要求されています。「2050年までにバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量ネットゼロ」の長期目標の達成に向け、ニチレキグループでは常温で扱える従来型の製品・工法に加え、長寿命、リサイクル、中温化などの性能・機能をプラスし、さらなるCO_2排出量の削減など、より高いレベルで環境保全に貢献する「足すテナビリティ®」製品・工法の開発や改良を推進しています。

2023年度は、以下に記す2件の新たな製品・工法を上市しました。いずれも、環境への配慮という点を重視し、従来型から改良を行ったものです。

【MGファルト】

道路橋のコンクリート床版の長寿命化を図るため、高速道路においては、耐用年数30年を想定した高性能な橋梁床版防水工法（グレードⅡ）が要求されています。但し、高速道路で修繕工事を行う場合、車両規制を長時間連続して行うことは難しく、高耐久型橋梁床版防水工法▶P.39の代替として、橋梁レベリング層自体にグレードⅡ相当の防水性能を付与した「橋梁レベリング層用改質グースアスファルト混合物（BLG）」での施工が行われています。

このBLGには専用の改質アスファルトが使用されていますが、より環境面での負荷低減に貢献することができる「MGファルト」への改良を行いました。

施工状況

施工断面図

【スーパーサーフトリートS工法】

アスファルト舗装は、紫外線、雨水、熱等の影響により徐々に劣化し、硬く脆くなっていきます。特に、舗装表面に近い部分はその影響を受けやすく、骨材飛散による面荒れや舗装表面からのクラックの発生へと進行し、やがては修繕を要するまでに損傷します。

このような大きな損傷が現れる前に、予防保全として舗装表面を封かん・保護する超薄層常温舗装「スーパーサーフトリート工法」を提供してきましたが、より耐摩耗性を高めた「スーパーサーフトリートS工法」へと改良を行いました。

▶P.36

■ 中長期目標

項目	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2025年度	2043年度	SDGsマッピング
新製品・工法開発（改良含む）上市件数*	1件	4件	6件	10件以上	40件以上	

＊ 2021年度以降に上市された新製品・工法（改良含む）の累計件数

外部パートナーとの取り組み

【GLOCAL-EYEZ】

2021年に開発したスマートフォンによる道路点検システム「GLOCAL-EYEZ」▶P.31を活用し、2023年度に青森県と共同で、積雪寒冷地における冬季の路面のポットホール（穴ぼこ）発生原因を分析することで、ポットホールの発生危険箇所を予測するAIを新たに開発しました。日々のパトロール中に取得したポットホール発生箇所の発生前後の点検結果を教師データとし、ポットホールに進行し得る損傷を分析し、AIに学習させました。

この取り組みにより、事後保全型の維持管理が中心であった従来とは異なる、点検・診断・施工・マネジメントが一体となった、予防保全型の舗装メンテナンスサイクルを構築したことが評価され、2023年度 土木学会「インフラメンテナンス チャレンジ賞」*を青森県とともに受賞しました。

全国的に土木技術人材が不足している中で、人力に依存せず効率的かつ低コストで常に最新の路面状態を把握できるGLOCAL-EYEZによる課題解決を、今後も推進していきます。

＊ インフラメンテナンス分野に特化し、インフラメンテナンスに関連する優れたプロジェクト（事業）、人・団体（技術者、オペレーター、管理者等）、個別要素技術（点検・診断、施工方法、材料等）および論文（実践的研究）を評価し、共有することによりメンテナンス関係者のインセンティブを高めることを目的とし、2021年に創設された賞

青森県との共同による取り組み

中長期目標

項目	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2025年度	2043年度	SDGsマッピング
共同研究開発上市件数*	1件	1件	1件	2件以上	10件以上	12 17

＊ 2021年度以降に共同研究開発から上市された開発品の累計件数

社会貢献活動

ニチレキグループは公共工事に携わる企業の社会的責任として、全国に広がる多くの拠点で災害復旧活動や地域貢献活動に積極的に参加しています。

日瀝道路

2024年2月の降雪で通行止めとなった首都高速道路（5号池袋線）の除雪作業を実施。関東地方整備局および首都高速道路株式会社より表彰状を拝受

青森ニチレキ

十和田市建設業協会の地域ボランティア事業として、官庁街通りの清掃活動に従事

関東支店/日瀝道路

栃木県立那須清峰高校建設工学科の2年生29名を対象に、舗装講座を開催。当社技術研究所の見学や、舗装工事の実地体験等を実施

四国ニチレキ工事

高知県室戸市羽根小学校における学校環境緑化モデル事業「羽根小 笑顔プロジェクト」にて、6年生の児童とともに遊具周辺にアスウッド舗装▶P.35を施工

北陸支店/日瀝道路

（一財）長岡花火財団主催の長岡まつり大花火大会において「慰霊・復興・平和を祈る長岡花火」の想いに賛同し、長年にわたり協賛

東関東支店

福岡工業団地協議会として、茨城県つくばみらい市の「みらいマラソン」開催に協力

Topics

「つくばビッグシップ」プロジェクトの着工

茨城県つくばみらい市における新たな環境配慮型の生産・物流基地「つくばビッグシップ」は、製造設備に係る半導体不足や資材の調達難等により建設を延期しておりましたが、2024年5月に着工いたしました。

「つくばビッグシップ」では2026年度の稼働開始に向け、次世代ニーズに対応した新たな高付加価値製品の製造や物流の効率化などを通じた、脱炭素化への先進的な対応を推し進めていきます。

完成イメージ図

生産能力の向上
最新鋭設備の利用およびDXの推進等により、各種製品の生産能力を向上させ収益力をアップ

高付加価値製品の製造
次世代ニーズに対応した高付加価値製品を製造

首都圏の「工事センター」機能の発揮
首都圏の「工事センター」として、工事への対応力を強化

環境に配慮した生産・物流の実現
環境に配慮した生産・物流体制の構築により、中長期的なサステナビリティを強化

物流管理の効率化
ニチレキグループの物流のコントロール・センターとして、効率的な生産・輸送体制を構築

BCP（事業継続計画）の強化
首都圏に複数の工場を保有することにより、災害発生時等に製品の供給責任を果たす

基本コンセプト

第72回 日経広告賞「大賞」および 第45回 2024日本BtoB広告賞「経済産業大臣賞」を受賞

2023年7月25日、8月2日の2週にわたり日本経済新聞（朝刊）に掲載したシリーズ広告が、日本経済新聞社主催の第72回 日経広告賞「大賞」を受賞しました。「大賞」は全応募作品約8,000点のうち最上位の賞であり、2020年の「環境部門 最優秀賞・環境大臣賞」から4年連続の日経広告賞受賞となりました。

さらに、日本BtoB広告協会主催の第45回 2024日本BtoB広告賞の最優秀賞である「経済産業大臣賞」を受賞しました。

交通インフラの老朽化に対する研究開発型企業としての課題解決への姿勢と、ヘルマン・ヘッセの小説や旧約聖書の記述を絡めた、分かりやすくインパクトのある表現が高く評価されました。

2023年7月25日掲載

2023年8月2日掲載

「ハイウェイテクノフェア2023」および「社会インフラテック2023」への出展

2023年11月9日、10日に東京ビッグサイトにて開催された(公財)高速道路調査会主催の展示会「ハイウェイテクノフェア2023」に、ニチレキとグループ会社のヒートロック工業が共同で出展しました。

高速道路、橋梁の長寿命化に寄与する製品・工法、点検DXシステムをメインに据え、「足すテナビリティ®」のキーワードとともに当社グループの舗装技術を紹介しました。

また、2023年12月6～8日に東京ビッグサイトにて開催された日本経済新聞社、インフラメンテナンス国民会議、日経BP主催の「社会インフラテック2023」に出展しました。

社会インフラの老朽化対策・維持管理をSDGs視点で捉えた展示会で、ニチレキの点検DXシステムによるソリューションを紹介しました。

ハイウェイテクノフェア2023

社会インフラテック2023

第27回 世界道路会議(プラハ大会)に出展

2023年10月2～6日にかけてチェコ共和国プラハ市において開催された、世界道路協会(PIARC)主催の第27回世界道路会議(プラハ大会)に出展しました。

PIARCは道路交通分野における国際的協力の推進、発展を目的とした本分野で最も歴史のある非営利国際機関であり、本会議は世界約120か国からおよそ6,000人の関係者、40か国の交通大臣等が参加しました。

技術展示会では日本道路協会による日本パビリオン内ブースにてニチレキ製品・工法を展示し、プレゼンテーションも行いました。特にアスウッド舗装▶P.35をはじめとする環境配慮型製品・工法が世界各国の参加者から注目を集めました。

PIARC会場

ブースにおけるプレゼンテーション